

ノタブリ橋 建設工事



三井住友建設株式会社国際支店 ノタブリ橋作業所 所長

高橋克行

Katsuyuki Takahashi



張出仮設、斜材施工状況



第2メコン国際橋(第2フレンドシップ橋)
提供：株式会社オリエンタルコンサルタンツ



主橋全体(下流側より望む)



世界で活躍する
日本の建設企業

プロジェクトの紹介

タイ王国は、人口六、六〇〇万人、面積五十二万平方キロメートルで国土の中心部をチャオプラヤ川が南北に縦断している。かつては農業中心の国であったが、現在は工業輸出国へと大きく変貌している。近年の一人当たり国内総生産（GDP）は五、〇〇〇ドル以上、直近のGDP成長率は二〇一三年三%、二〇一四年は二・三%を見越しており、政治的混乱が懸念材料としてありながらも、着実に東南アジアの雄として経済発展を続けている。特にバンコク首都圏は、約一、〇〇〇万人の人口を擁するタイの政治・経済の中心であるだけでなく、国内外から多くの人やモノが集まる東南アジア地域でも有数の大都市であり、同地域にとって重要な位置を占めている。

当プロジェクトは、都市圏の拡大に伴い、朝夕に交通渋滞の発生が深刻な問題となっているバンコク首都圏ノタブリ県において、チャオプラヤ川に架かる橋梁、アクセス道路及び二つのインターチェンジを新設し、輸送ネットワークの効率性向上及び交通渋滞の緩和を図り、産業の振興及び都市環境の改善に寄与することを目的とし日本の有償資金協力によって建設するもので、当社はタイ王国ゼネコン最大手のイタリアンタイ社と共同企業体を組み受注した。



ノタブリ橋完成予想図

工事概要

当社が担当する主橋は、チャオプラヤ川に架かる橋長四六〇メートル、幅員三三メートル、主塔の高さ四六（意匠部分一九メートル含む）メートルの三径間連続のタイ王国初となるエクストラードロード橋である。最大支間長二〇〇メートル・幅員三三メートルと場所打ち張出架設工法としてはアジア最大級の規模となる。主塔側斜材定着部はケーブルが通過しないサドル型定着構造で、従来の鋼殻構造と異なり、一段ごとにサドルを設置するため鋼材重量が軽減され、経済性、施工性に優れた構造となっている。

工期は二〇一二年五月から二〇一五年三月である。二〇一四年六月現在、約四〇〇名の作業員が働いており国籍も近隣諸国を含み多岐にわたる。安全及び品質管理を徹底し、これまで

数多くの橋梁建設で培った経験を活かし工期内の竣工を目指している。

タイ王国における当社の施工実績

当社国際支店において、タイ王国は最も歴史のある海外拠点であり二〇一二年には四〇周年の節目を迎えた。バンコク事務所がインフラ土木案件を統括し、現地法人であるSMCCタイランド社が建築案件を手掛けている。建築案件の実績には、事務所複合ビルや商業施設・コンドミニアム等があり、近年はタイ王国へ進出する日系企業の生産・流通設備を数多く手掛けている。土木案件の実績は、ODAプロジェクトが中心であり、チャオプラヤ川に架かるODA関連橋梁一四橋のうち、当社の施工実績は、一九七二年のターチャン橋、ノイ橋を皮切りに、二〇〇六年のポケット橋まで八件に上り、本橋で九橋目である。更に二〇〇六年にはミャンマー、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナムを結ぶ東西経済回廊の第二メコン国際橋をタイ・ラオス国境で施工している。

最後に、海外で働く者として、現地及びナショナルスタッフへの尊敬の念を忘れず、技術移転やCSR活動を通じて、タイ王国の発展への貢献と、スタッフにとって働き甲斐のある魅力的な職場にする事を心掛けていきたい。